

Contents

クマによる被害の深刻化 P.1

適応四方山話 ―アバカ産地化プロジェクト― P.2

適応ビジネス最前線 ―静岡信用金庫― P.3

しらす漁業現場における暑熱環境 P.4

クマによる被害の深刻化―静岡県でも目撃件数が急増―

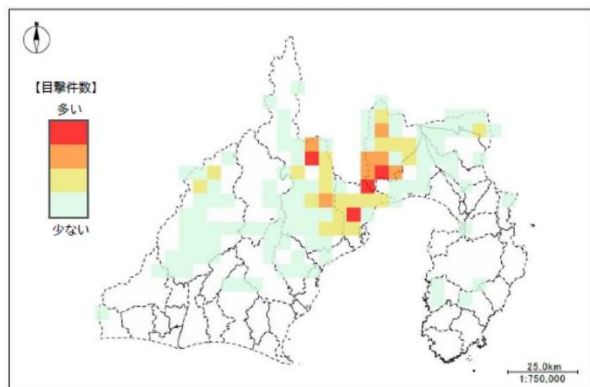
近年、日本全国でクマによる人身被害が増加しています。令和 7 年度の速報値¹⁾（12 月 5 日現在）では、死亡者数が 13 人と統計開始以来最多を更新し、被害者数も 230 人に達するなど、極めて深刻な状況となっています。

静岡県にも南アルプスや富士山周辺を中心とした山間部にツキノワグマが生息しています。なかでも富士山周辺の個体群は、ほかの地域から分断され生息区域が狭くなっているため、静岡県レッドデータブック²⁾において「絶滅のおそれのある地域個体群」に区分されています。このように本県では豊かな自然環境が存在する証拠ともなっているツキノワグマですが、近年富士宮市や静岡市などで山間部と隣接する地域での目撃情報も多く、人の生活圏との境界線が曖昧になってきており、遭遇リスクが高まっています。静岡県自然保護課では、県内のクマ目撃情報をまとめた「クマ出没マップ」をホーム

ページ内で公開³⁾していますので、登山やハイキング、日常の安全確保にぜひご活用ください。

さて、近年のクマによる人身被害については、捕獲や追い払い体制の強化、市街地での銃使用など、緊急的対応の検討が進められていますが、気候変動に伴う暖冬や猛暑は、クマの冬眠期間の縮小⁴⁾やエサとなる堅果類の種子生産に影響を与えること⁵⁾など、行動パターンに影響を与える一因となることが懸念されます。長期的な気候変動影響を踏まえて、クマの生息する森林をどのように管理・維持するか、クマの分布変動を想定してどのような捕獲計画を立てるか、など、科学的予測に基づいた適応策を考える時期にきているといえます。

- 1) 環境省：クマに関する各種情報・取組
<https://www.env.go.jp/nature/choju/effort/effort12/effort12.html>
- 2) 静岡県自然保護課：静岡県レッドデータブック
<https://www.pref.shizuoka.jp/kurashikankyo/shizenkankyo/wild/1017686.html>
- 3) 静岡県自然保護課：静岡県のツキノワグマ
<https://www.pref.shizuoka.jp/kurashikankyo/shizenkankyo/wild/1017680.html>
- 4) Yamamoto et al.: Journal of Mammalogy, 97(1):128-134, 2016
<https://doi.org/10.1093/jmammal/gyv162>
- 5) Masaki et al.: Population Ecology, 50:357-366, 2008
<https://doi.org/10.1007/s10144-008-0104-6>

静岡県ツキノワグマ目撃マップ（H30～R7.9）³⁾

平成 30 年度以降のクマの目撃情報を色分けをして表示

静岡県自然保護課では、南アルプス地域と富士地域のツキノワグマの生息状況を明らかにするため、令和 6 年 6 月～10 月にかけて、カメラトラップ調査を実施しました。調査結果をもとに全県における生息頭数を推定しています。

【巻頭写真】富士地域のツキノワグマ（2024.8.17）

アボカドの産地化に向けて

気候変動に伴う気温上昇によって、ニュースレター第6号で紹介したマンゴーのように⁶⁾、これまで静岡県で栽培が難しいとされてきた亜熱帯果実の生産が可能になり、新たなビジネスチャンスとなるかもしれません。今回は、本県がチャレンジしているアボカドの産地化を目指す取組を紹介します。

本県でアボカドが栽培できると・・・

アボカドの国内市場は年々拡大していますが、日本で流通しているもののうち約99%が海外からの輸入品で、その多くは皮が厚く輸送で傷つきにくい「ハス」と呼ばれる品種です。実はアボカドの品種は1,000種以上あるといわれており、冬季が温暖な本県の気候に合えば、「ハス」とは異なる風味や食感をもつ品種を栽培することが可能です。また、輸入品と比べて、より熟した状態で収穫・出荷できるという利点もあります。首都圏への出荷も可能ですし、多彩な地元食材とのコラボも期待できます。

国産アボカドの現状と課題

令和4年産特産果樹生産動態等調査（確報）によると⁷⁾、国内のアボカド栽培面積は38.9haで、愛媛県や和歌山県、鹿児島県、佐賀県などの温暖な地域で育てられています。出荷量はわずか28.9tとなっています。静岡県内においても、浜松市や牧之原市、河津町などで試験的に栽培されているものの、ミカン園地の一角で小規模に育てられているなど、商業ベースでの生産には至っていません。

アボカドは寒さに弱いため、温暖な地域といえども冬の寒波で枯れることがあります。一方で夏の渇水による水分不足にも注意しなければいけません。また、日本でアボカドに適用できる農薬が限られていることも課題の一つに挙げられます。



アボカド産地化プロジェクトキックオフフォーラムの様子

しずおかアボカド産地化プロジェクト

気候変動に適応しつつ、本県の新たな作物として期待されるアボカドの導入・産地化を推進するため、本県農業戦略課が中心となって栽培技術の確立や商品化に向けた取組を推進する「しずおかアボカド産地化プロジェクト」⁸⁾がスタートしました（令和7年度～9年度予定）。

このプロジェクトの中で、本県の果樹研究センター、伊豆農業研究センターが、それぞれ無加温ハウス、露地における幼木の安定的な栽培技術に関する研究を進めています。同時に、県内各地のアボカド生産園地でも、アボカドの生育状況や栽培管理及び園地の気温等の実態調査を行っており、本県の特性を踏まえた栽培マニュアルの作成に取り組みます。また、どのような購買層の需要が高いのか、適切な価格帯はどの程度か、流通をどのように安定させるかといった、販売戦略についても検討します。

令和7年5月28日に行った「キックオフフォーラム」は生産者や企業の方などが出席し、120名の会場が満員札止めとなり、このプロジェクトへの関心の高さがうかがえました。現在、プロジェクトに関する情報は、県のメールマガジン「しずかド通信」⁹⁾を配信していますので、ご興味のある方はぜひ登録してください。本県の農業分野における新たな気候変動適応の取組にこれからもご注目ください。

- 6) 静岡県気候変動適応ニュースレター第6号
https://kaneiken.jp/wordpress/wp-content/uploads/2025/02/ShizuokaLCCAC_newsletter_6.pdf
- 7) 農林水産省：特産果樹生産動態等調査
https://www.maff.go.jp/j/tokei/kouhyou/tokusan_kazyu/index.html
- 8) 静岡県農業戦略課：しずおかアボカド産地化プロジェクト推進事業
<https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/nogyo/1040646/1072065/index.html>
- 9) 静岡県農業戦略課：しずかド通信 メールマガジン会員募集
<https://www.pref.shizuoka.jp/sangyoshigoto/nogyo/1040646/1072065/1072970.html>



＜ハス＞
現在日本人が食べている品種

＜フェルテ＞
油分が多く甘みがある
アボカドの品種例



－ 常葉大生が探る－ 適応ビジネス最前線

「スマイル・リング」について教えてください

令和 7 年 11 月 4 日から令和 8 年 1 月 30 日の間、販売している定期預金です。お客さまからお預かりした定期預金の 0.01%相当額（上限 100 万円）を「公益財団法人ふじのくに未来財団」に寄付し、環境保護や自然災害の備えに向けた活動に役立てていただく仕組みを取り入れています。またご成約時、お客さまには 5 年間保存できる非常食「にぎらずにできる携帯おにぎり」をプレゼントします。チラシには、すぐのできる緩和策や適応策をまとめた内容を掲載し、お客さまの日々の生活での行動変容を促すような仕掛けを盛り込んでいます。また多くの方に本商品の趣旨にご賛同いただくため、特別金利を適用しました。寄付金は当金庫が負担することとなり、お客さまへの負担はありません。

この商品のきっかけは？

当金庫では、長年環境活動に積極的に取り組んできましたが、平成 15 年に定期預金「せいしんエコライフ宣言」を発売したのを皮切りに、環境をテーマとした商品を販売し続けています。この夏には「静岡県地球温暖化防止活動推進センター」への寄付を取り入れた定期預金「COOL 2025」を発売し、ご成約いただいたお客さまには、静岡県の温暖化対策アプリ「クルポ」のポイントをプレゼントしました。同時に、当金庫職員も「クルポ」を活用した活動に参加しました。

気候変動に対応しながら新たなビジネスを展開したり、自社の製品やサービスにより適応を推進している事業者を大学生がインタビューします。

今回は、「気候変動」に対するレジリエンスを高めることを目的とした定期預金「スマイル・リング」を販売された、静岡信用金庫 経営相談部副部長の中野真吾さん、営業推進部 営業企画課長の石川慶一さん、推進役の池谷洋美さんにお話を伺いました。

今回の定期預金「スマイル・リング」の立案は、今夏、静岡県に大きな被害をもたらした台風 15 号がきっかけです。静岡県内での甚大な被害を目の当たりにして、何か支援ができないかと思案し、「ふじのくに未来財団」への寄付を通じて災害復興の支援をさせていただこうと考えました。また同時に、定期預金の契約をしていただく地域の方々にも環境や防災に対する意識を高めていただきたいというコンセプトで企画しています。

他にも適応に関する活動をされていますか？

当金庫では、今夏 7 店舗を指定暑熱避難施設として提供しました。また、事業継続計画作成のお手伝いをしていますが、近年の気象災害をきっかけに実効性のある体制をつくりたいという企業さんが増えてくると思います。企業支援として「ビジネスマッチング」にも積極的に取り組んでおり、地球温暖化対策や災害対策といった観点を意識し、社会課題の解決につながるマッチングが成立するよう努めています。

当金庫は地域に密着した運営を大切にしています。単純な金融サービスだけではなく、地域コミュニティの一員として、地域行事等に積極的に参加をして連携を深め、地域の活性化にこれからも貢献していきます。

静岡信用金庫 <https://www.seishin-shinkin.co.jp/>
スマイル・リング

<https://www.seishin-shinkin.co.jp/topics/2025/251104.html>

インタビューを終えて

常葉大学経営学部 林ゼミナール



3 年 篠原 崇秀

スマイル・リングや COOL 2025 の取り組みを通して、金融機関が地域や社会課題の解決に積極的に関わっている点が印象に残りました。特に、お客さまに負担をかけずに環境保護や災害対策へ貢献できる仕組みは、金融の新しい役割だと感じました。このような取組が多く企業に広がっていくと良いなと思いました。

3 年 鈴木 俊也

信用金庫は堅いイメージがありあまり馴染み深いものではなかったのですが、静岡信用金庫では地域に密着した活動を多くされておりイメージが変わりました。さらに台風 15 号の影響は自分の地域にはありませんでしたが、少し離れると被害を受けた建物などが数多くありました。だからこそスマイル・リングを通じた活動などは災害対策の 1 歩として素晴らしいと感じました。

センター活動報告 しらす漁業現場における暑熱環境～気候変動適応の研究会で発表～

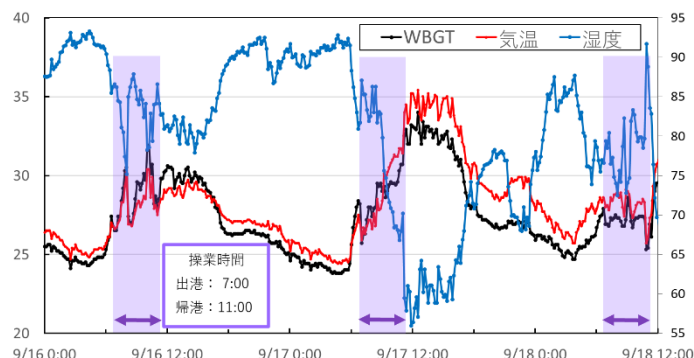
令和7年12月16日、国立研究開発法人 国立環境研究所 気候変動適応センター主催による「令和7年度 気候変動適応の研究会 研究発表会・分科会（以下、研究会）」が東京で開催されました¹⁰⁾。この研究会は、「気候変動適応に関する研究機関連絡会議」のもと、地域での気候変動適応の実践（社会実装）に向けて、研究者・実務者等が具体的な連携を模索することを目標に活動しています。

今回、気候変動適応に関する研究発表の場としてポスターセッションの機会が設けられ、当適応センターも「1次産業現場における暑熱環境の現状と適応策」と題したポスターを掲示し、これまで実施した養鰻業、養豚業、しらす漁業における調査結果等について発表しました。

この発表内容の内、令和7年度に実施した「しらす漁業の現場における暑熱環境調査」の概要について紹介します。本県のしらす漁業は、遠州灘を主漁場とする西部地域から駿河湾の西部～富士市地先の海域を中心に、漁船による船曳網という漁法で操業されていますが、漁網の投入から網揚げなどの甲板上での作業は日射を遮る屋根はなく、特に夏季は炎天下での作業となります。漁船上で暑熱環境を調



しらす船引き網漁業



しらす船の暑熱環境（9月16日～18日）

査した事例はほとんどなく、今回、8月下旬から9月下旬まで WBGT 計（京都電子工業製）を漁船に取り付け、温・湿度及び WBGT（暑さ指数）を観測しました。

観測期間中、気温の高かった9月17日付近では（上図）、漁船の甲板上は、日最高気温が35℃以上、WBGTが31℃以上（危険レベル）となった時間帯もありましたが、操業時間帯（7～11時）でみると、概ねWBGTは25～30℃（警戒～嚴重警戒）となっていました。午前中に操業すること自体が熱中症対策として有効なことがうかがえます。ただし、16日のように気温があまり高くなくても、海上では湿度が高いために WBGT が危険レベルに達することもあります。陸上と違い、海上はすぐに涼しいところへ移動できないリスクがあるため、暑さを感じにくい日でも油断せず、こまめな水分補給や着帽など、熱中症対策を怠らないようにしましょう。

10) 令和7年度 気候変動適応の研究会 研究発表会・分科会

<https://adaptation-platform.nies.go.jp/ccca/conference/2025/1216/index.html>

静岡県気候変動適応センター Newsletter 第9号

編集後記



- ◇ 最近のクマ被害を“気候変動影響”にとらえてよいのか？（このニュースレターで取り上げるのが適当か？）ずいぶん悩みましたが、こういうあいまいなところにフォーカスを当てていくのもニュースレターの役割かな、と思い至りました。クマ被害対策と生態系保全を両立させる「ネイチャーポジティブ」なアプローチに、適応の視点で貢献していければと思います。
- ◇ “アボカドに醤油をかけるとマグロになる”という話を信じて、試してみようと思ったけど、アボカド自体手に入らなかった。。。というのも今は昔、スーパーでも日常的に見かけるようになりましたね。店頭で静岡県産のアボカドが並ぶ日が来る、と想像するだけでワクワクします。油分が多い品種だと、まさに大トロを食べた気分になるのでしょうか？

- ◇ 静岡市は“プラモデルのまち”。市内各所に組立前の巨大なプラモデルをイメージして作られたモニュメントがあるのですが、静岡信用金庫さんの前にも金庫扉のプラモニュメント（P3 下写真）が！これだけでもあふれる地域愛が感じられます！
- ◇ （常葉大学林信濃准教授）「地域に根付いた金融機関として、静岡信用金庫が静岡県の気候変動適応策に貢献する金融商品を販売していることはとても意味のある事と感じました。お金による貢献も素晴らしいのですが、こういった商品の存在が県内の多くの人の意識を変革する意味においても重要と感じました。」
- ◇ 高温期に漁獲されるしらすは鮮度低下が早く、漁獲直後に十分な氷で冷却し、さらに運搬船を使用して港まで短時間で搬送します。近年はクレーンで陸揚げするなど労働環境を改善する取組にも感心しました。



発行：静岡県気候変動適応センター（静岡県環境衛生科学研究所 環境科学部内）

〒426-0083 静岡県藤枝市谷稲葉 232-1 TEL: 054-625-9131 / FAX: 054-625-9142

URL: https://kaneiken.jp/center_top

